

きずな

北九州市立折尾西小学校

学校だより 1月号

平成31年1月9日(水)

校長 成重純一

来年度に向けて

昨日、3学期が始まりました。当たり前のようで気付きにくいことですが、冬休みに大きな事故の報告がなく、胸をなで下ろしています。

3学期は、本年度に限ってみれば、三つ目の学期ですが、来年度からさかのぼってみれば、1学期の前の0学期ということになります。3学期は、まとめの学期であるとともに、助走を始める準備の学期でもあります。来年度に大きくジャンプできるように、各学級でしっかりと生活や学習のまとめを行いつつ見通しをもたせ、自覚を促してまいります。3学期も、どうぞよろしくお願いいたします。



改善の積み重ねにご協力ください

2学期末個人懇談会の日程については、17時までの懇談ができるようにご協力いただき、ありがとうございました。大変助かりました。こういう小さな改善の積み重ねが、働き方改革へとつながっていきます。この働き方改革は、子どもたちの成長や教育の将来につながるものです。

現在、国の中央教育審議会でも議論が進んでいます。「学校における働き方改革特別部会」がまとめた「新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制の構築のための学校における働き方改革に関する総合的な方策について(素案)」(平成30年12月6日)には、次の記述があります。

- ◆ ‘子供のためであればどんな長時間勤務も良しとする’という働き方は、教師という職の崇高な使命感から生まれるものであるが、その中で教師が疲弊していくのであれば、それは‘子供のため’にはならないものである。(p2)
- ◆ 国際的にも評価されている「日本型学校教育」を展開する中で、我が国の学校教育の高い成果が、教員勤務実態調査に示されている教師の長時間にわたる献身的な取組の結果によるものであるならば、持続可能であるとは言えない。「ブラック学校」といった印象的な言葉が独り歩きする中で、意欲と能力のある人材が教師を志さなくなり、我が国の学校教育の水準が低下することは子供たちにとっても我が国や社会にとってもあってはならない。(p5)

本校教職員も、「子どものためになるのであれば」と高い志をもって仕事をしています。しかし、上述のように、勤務時間を無視した働き方により、担任が疲弊していくのであれば、翌日に元気な顔で子どもたちの前に立つことはできず、質の高い授業はできません。また、学生が、教育現場を「ブラックな職場」と認識することは、将来にかけての大きな人的損失と教育の質の低下につながります。

本校では、少しずつ保護者・地域の皆様のご理解をいただきながら、担任が毎日元気に子どもの前に立てる環境づくりを進めてまいります。ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。

